



1 | 2 | 3

1 会場の様子
 2 講演をする赤崎特別教授
 3 名古屋大学レクチャーシップの表彰楯授与式の様子

名古屋大学レクチャー2012「青色LEDが拓いた光の革命」が、10月6日(土)、豊田講堂において開催されました。

同レクチャーは、本学が主催する最も重要な講演会の1つで、今回で8回目となります。分野を問わず、世界的に著名な研究者の講演を広く一般市民の方々に公開し、現代世界の最高の「知」に触れてもらうために行われるもので、講演者には、名古屋大学レクチャーの称号及び表彰楯が授与されます。

今回は、青色LED(発光ダイオード)の発明者で、名城大学終身教授である赤崎 勇本学特別教授が講演しました。赤崎特別教授は、何十年もの長い歳月をかけ、地道な努力、屈強な精神力、そして他に類のない研究遂行能力によって、窒化ガリウムを用いた高輝度の青色LEDの開発を成し遂げました。赤崎特別教授の発明によって初めてLEDで全ての色を表現することが可能となり、白熱電球からLED照

明への光の革命をもたらしたことから、「現代のエジソン」と評されており、文化勲章の受章やエジソン・メダルの受賞など、国内外から高い評価を受けています。

当日は、まず濱口総長があいさつを行い、次いで、「知の拠点」シンクロトロン光センター所長である竹田美和本学特任教授が、「青色LEDの意義」と題し、青色LEDの基礎や赤崎特別教授の人柄について、分かりやすく話しました。

続く名古屋大学レクチャーの称号授与式及び表彰楯贈呈式では、総長から赤崎特別教授に「聖人が現れ、平和で学問が尊重される世の中になる前兆」とされる「麒麟」をモチーフにデザインされた名古屋大学レクチャーシップの表彰楯が贈呈されました。

次に、赤崎特別教授が、「コバルトブルーに魅せられて」と題し、実用的な高い輝度を出す青色LED実現までの長い道のりについて、講演を行い

ました。材料である窒化ガリウムの高品質な結晶を作るのが困難であったため、青色LED技術の実現は不可能だと多くの研究者が見切りをつけていった中、「これこそ自分の仕事だ」と決して諦めずに、「ひとり荒野に行く」の心境で黙々と挑み続けていた青色LED実用化に込めた思いにも触れ、研究の神髄を感じ取ることができる講演となりました。最後に、「夢をもとう」、「失敗を恐れない」、「最後まで諦めない」、「疑問を大切にしよう」、「輪(仲間、友達)を拓けよう」と若い世代にエールを送りました。

最後に、近藤高等研究院長による閉会のあいさつがあり、大盛況のうちに終了しました。今回は、本学教職員、一般市民の方々など1,000名程度が参加し、熱気溢れる講演会となりました。参加者からは、「大変感銘を受けた」、「赤崎特別教授の研究への情熱を充分に感じられた」などの感想が多数寄せられました。